



前加條目
民法假法則

1203
~~1261~~



114
A2658

前加條目

第一條 法律ハ太政官ノ頒布ニ依リ全國

ニ於テ之ヲ施行ス可シ

但シ法律ヲ頒布シ各府縣ニ達スル時各

府縣直ニ之ヲ管下ノ揭示場及ヒ區々ニ

揭示シタル日ヨリ五日ヲ經レハ各管下

ノ人民皆承諾スルコト者做ス可シ

第二條 法律ハ將來ノ事ヲ定ルノミニシ

大正十一年三月
大隈侯爵
大隈

大隈侯爵
大隈

法律省

テ之ヲ既往ニ及ス可カラス

第三條 國中取締及ヒ安寧ノ事ニ管スル
法律ハ日本國內ニ住居スル者皆之ヲ循
守ス可シ

不動産ハ外國人ノ所有スル物ト雖モ日本
ノ法ヲ以テ之ヲ支配ス可シ

人ノ身分及ヒ能力ニ付テノ法律ハ國內
ニ住居スル者ハ勿論外國ニ住居スル者ト

雖モ必ス之ヲ循守ス可シ

第四條 裁判役若シ法律ノ不備不明等ヲ
以テ口實ト為シ受理セサルキハ其不受理
ノ罪ノ訴ヘヲ受ク可シ

第五條 裁判役ハ已レニ告白セシ訴訟ニ付
キ其事ヲ断スルヲ得ト雖モ此ヲ以テ一
般ノ規則ト定ムルヲ得ス

第六條 私人ノ契約ヲ以テ國中ノ安寧及ヒ

風儀ニ管スル法律ヲ犯ス可カラス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

民法假法則

身分證書

第一卷 身分證書取立ニ付テノ要務

第一條 各組合ニ於テ組頭ニ身分取扱ノ

役ヲ兼子レノ即チ出產婚姻離縁及ヒ死

去ノ證書ヲ殘テス受取リ保存セシム可

シ

但シ組合トハ各地方ニ於テ便益ヲ同フ

レ義務ヲ共ニスル者ノ住所ニシテ一村
町又ハ数村所ヲ合セタル者トス此一組
合又ハ数组組合ヲ合セタル者ヲ小區トシ
數小區ヲ合セテ大區トシ數大區ヲ合セ
テ縣トス

三府及ヒ人民輻輳ノ地ニシテ之ヲ一組
合ト爲ト雖モ既ニ之ヲ數大區トシ分チア
ルノ地ニ於テハ各其大區毎ニ身分取扱

人一人ヲ置ク可シ

第二條 各身分取扱又ニ助役一人ヲ附屬ス可

シ若シ身分取扱人疾病事故アル時ハ助役之

ニ代ル可シ

第三條 各地方ノ必用ニ依テハ裁判所ヨリ右

助役ノ外ニ書記一人或ハ數人ヲ置ク可シ右

書記ハ證書ヲ記寫スル役ニシテ本書及ヒ公

寫ニ押印スルノ權ハ身分取扱人及ヒ助役ノ

之ニ之アル可シ但シ本書トハ身分證書ヲ云

フ

第四條 洪水風波積雪等都テノ差支ニ由テ一

組合ノ隔リタル兩地ノ間ニ往來ノ危難又ハ

不便或ハ往來全ク絶ル時ハ右組合ノ部ニ身

分取扱ノ役ヲ當分勤メシメンカ為ニ其組合

ヲ管轄スル區裁判所ノ所長身分取扱人助役

一人ヲ撰任ス可シ右助役ハ其組合ノ部ニ住

居シ自宅ニ於テ役ヲ勤ムルヲ得可シ

第五條 前條ニ從ツテ撰任シタル助役ハ各別

ノ簿冊ヲ用ユ可シ此簿冊ハ道ノ往來未タ全

ク開ケサル内ニ於テ八年ノ終リニ至リ身分

取扱人ニ差出ス可シ往來全ク開ケル時ハ之

ヲ身分取扱人ニ引渡シ其職ヲ罷ム可シ身分

取扱人ハ第二十二條ニ從テ年ノ終リニ至リ

區裁判所ヘ已レノ簿冊ト共ニ之ヲ納ム可シ

第六條 右各條ニ定リタル役人ノ外ハ何レノ者ト雖モ身分證書簿冊ノ記載或ハ身分證書ノ陳述ヲ承諾スルコトニ關係スルヲ禁ス

第七條 各人民ハ隨意ニ己ノ宗旨ノ禮式ヲ以テ出產婚姻及ヒ死去ヲ吊祝スルヲ得ヘシ

第二卷

身分證書簿冊及ヒ身分證書ヲ記載スル事

第八條 身分證書ヲ記載ス可キ簿冊ハ民費ヲ以テ毎年十二月十五日迄ニ身分取扱人ニテ調製シ區裁判所ハ差出ス可シ但右簿冊ハ第二十條ニ於テ定メタル如ク區裁判所ノ所長押印セシ後之ヲ書記

局ヨリ身分取扱人ニ渡ス可シ

第九條 各年一月十五日迄ニ前年ノ各簿

冊ニ記載セル身分證書ノ目錄ヲ各簿冊

ノ終リニ書ス可シ

但シ右目錄ハイロハノ順序ヲ以テ其姓名

ヲ書シ抽出ニ便ニス可シ

第十條 十年目ニ區裁判所書記局ニ納ム

可キ一ツノ簿冊ヲ作り之ニ右十年分ノ

諸目錄ヲ合テ寫シ書ス可シ但シ年期ノ都

合ノタメ紀元二千五百四十年ニ至リ右

惣目錄ヲ始テ作ル可シ

第十一條 身分證書簿冊ノ寫ヲ願出ル者

アル毎ニ便利ノ為左ノ手續ヲ以テ遲滯

ナク之ヲ渡ス可シ此寫ヲ公寫ト云

第一本年取扱中ノ簿冊ノ寫又ハ組合

ノ舊記載ニ藏メシ簿冊ノ寫ナレハ

身分取扱人ヨリ之ヲ渡ス可シ

第ニ既ニ區裁判所ノ舊記藏ニ藏シ簿冊ノ寫ナレハ書記役之ヲ渡ス可シ

第十二條 身分證書ノ記入ハ勿論初度ノ公寫渡方モ無償ニス可シ其後ノ公寫ニ至テハ各金五錢宛納ム可シ

第十三條 身分證書ニハ身分取扱人ノ其證人陳述ヲ受タル年月日時ト其書ニ記ス

ハキ人ノ姓名年齢職業住所トヲ記スヘシ

第十四條 身分取扱人ハ其證書中ニ出席ヲ為シタル者ノ陳述スル所ノ外何事ヲ論セス註解又ハ説明ノ為ノ記載スルヲ得可カラス

第十五條 本人ノ自ラ出席スルニ及ハサル場合ニ於テハ別段ノ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ヲ出スヲ得可シ但

公正ノ證書トハ公證人ヨリ渡レタル
書ヲ云フ

第十六條 身分證書ノ證人ハ本人ノ親族
又ハ其他ノ者タルヲ問ハス滿二十一歳
以上ノ男ノミヲ用フヘシ但シ其證人ハ
本人ノ擇フ所ニ從フ可シ

第十七條 身分取扱人ハ其證書ヲ出席ヲ
為レタル者及ヒ證人ニ讀ミ聞ス可シ

又其證書ニ其書ヲ讀ミ聞セタル式ヲ行
ス可シ

第十八條 此證書ニハ身分取扱人ト出席
ヲ為レタル者及ヒ證人トニテ其姓名ヲ
記シ押印ス可シ

第十九條 身分證書ハ身分取扱役所ニ於
テ二冊ノ本書ニ記ス可シ

第二十條 其二冊ノ本書ハ區裁判所ノ所

長又ハ所長ニ代ルヘキ裁判役其初葉ト
冊尾トニ記号ヲ付シ且各葉ノ継目ニ裁
判所ノ印ヲ押スヘシ

但シ其初葉ト冊尾トニ記號ヲ付ルトハ
初葉ニ初ト書シ其次ニ二三ト各葉ニ番
號ヲ記シ終葉ニ至リテ終ト書スルヲ云フ
第二十一條 身分證書ハ其簿冊ニ空行ナ
ク相連接シテ之ヲ記ルシ若シ塗抹或ハ

書入ノ符號アレハ本文ト同シク之ヲ承諾ス
ルノ證トシテ其姓名ヲ記シ押印ス可シ

第二十二條 身分取扱人ハ年ノ終ニ至ル毎
ニ其證書ノ簿冊ニ奧書シ翌年第一月内
ニ其一冊ヲ組合ノ旧記蔵ニ蔵メ又一冊
ヲ區裁判所ノ書記局ニ納ム可シ
但シ奧書ノ式ハ右ノ通相違無之候以上
ノ文ト年月日姓名トヲ記シ押印ス可シ

第二十三條 身分證書ニ添へ置クヘキ名代人ヲ任スル證書等ノ書類ハ差出ス毎ニ其差出ス人ト身分取扱人ノ實印ヲ押し其身分取扱人ニテ之ヲ受取ル毎ニ身分證書ニ添へ置キテ年ノ終ニ至リ其儘之ヲ區裁判所ノ書記局ニ納ムヘシ

第二十四條 何人ニ限ラス身分證書ヲ記シタル簿冊ヲ管守スル者ヨリ其簿冊ノ

公寫ヲ得可シ但シ此公寫ノ其本書ニ違ハスシテ區裁判所ノ所長又ハ其所長ニ代ル可キ裁判役ノ確的ナリト爲シタル者ハ贋造ノ訐ヲナス迄ハ右公寫ヲ真正ナリトス

第二十五條 右簿冊ノ未タアラサルカ又ハ亡失セシ時ハ其本人ヨリ證書又ハ證人ヲ以テ其由ヲ證スルヲ得ヘシ但シ右

場合ニ於テ出産婚姻死去ヲ證スルニ
ハ死シタル父母ノ手記シタル書類又
ハ證人ヲ以テ證スルヲ得可シ

第二十六條 外國ニ於テ記シタル日本
人ノ身分證書又ハ外國人ノ身分
證書ハ其國ニ於テ用ユル所ノ體裁ニ
循ヒ記シタル時ハ之ヲ真正ソモノト為
ス可シ

第二十七條 外國ニ在ル日本ノ身分證
書ハ日本ノ公使又ハ領事官日本ノ法ニ
循ヒ其陳述ヲ受ケ之ヲ記シタル時ハ適
當ノモノト為スヘシ

第二十八條 既ニ簿冊ニ記シタル身分證
書ノ端ニ又其身分ニ係ル證ヲ記入スヘ
キ時ハ其本人等ノ願ヒテ身分取扱
人其現今用フル所ノ簿冊又ハ既ニ組合

ノ旧記載ニ藏メシ簿冊ニ之ヲ記入ス可
シ又區裁判所ノ書記役ハ既ニ其書記局
ニ藏メシ簿冊ニ之ヲ記入スヘシ但シ區裁
判所ノ書記局ニ藏メシ簿冊ニ其記入ヲ
為サシムヘキカタメ身分取扱人ヨリ其
裁判所ニ出ツ可キ檢部ニ三日内ニ其報
告ヲ為シ其檢部ハ二箇ノ簿冊ニ互ニ同
一ノ方法ヲ以テ記入スルヲ監視ス可

第二十九條 右各條ニ記載スル所ノ官吏
等ノ右各條ノ旨ニ背ク事アル時ハ區裁
判所ヘノ訴訟ヲ受ケ五圓ニ過キサル罰
金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三十條 簿冊ヲ管守スル官吏ハ其簿冊
中ニ毀損アル時ハ其損害ヲ償フノ責ニ
任スヘシ但シ他ニ其損害ヲ為ス者アリ

テ其官吏ヨリ其者ニ對シ償ヲ求ムヘキ
道理アル時ハ格別ナリトス

第三十一條 身分證書ヲ改正スル事及ヒ
其證書ヲ贋造スル事又ハ其證書ヲ零紙
ニ記シ及ヒ其證書ヲ記スヘキ簿冊ニ非
サルモノニ記シタル事アルハ其官吏
ヨリ本人ニ對シ其償ヲ出ス可シ但シ刑法
ニ記載スル所ノ罰ハ此規則ノ外タル可シ

第三十二條 區裁判所ニ出ツ可キ檢部ハ簿
冊ヲ其裁判所ノ書記局ニ納ムル時其簿
冊ヲ檢視シ其檢視シタル事ヲ簡易ニ別
ノ調書ニ記シ且身分取扱人ノ右簿冊ニ
付規則ニ背キ為シタル過誤輕重罪ト見
付ル毎ニ其官吏ニ對シ罰ヲ言渡ス可キ
事ヲ公請ス可シ

第三十三條 何レノ場合ニ於テモ區裁判所

三
法
卷
ニ於テ身分證書ノ事ヲ審判シタル時其
審判ニ關係シタル者ヨリ其裁判所ノ審
判ヲ控訴ズルヲ得可シ

三
法
卷
第
三
十
四
條
出
産
證
書

第
三
十
四
條
出
産
ア
ラ
ハ
其
出
産
ノ
時
ヨ
リ
三
日
内
ニ
之
ヲ
其
地
ノ
身
分
取
扱
人
ニ
陳
述
シ
且
其
身
分
取
扱
人
ニ
其
生
レ
タ
ル
子
ヲ
示
ス
可
シ
但
シ
子
若
シ
病
ア
ラ
ハ
身
分
取
扱
人
其
家
ニ
至
リ
之
ヲ
檢
ス
可
シ
若
シ
出
産
ノ
陳
述
ヲ
ナ
サ
ル
前
ニ
其
子
死
ス
ル
キ
ハ
醫
師
ノ
證
書
ヲ
以
テ
陳
述
ス
可
シ
其
時
モ
亦
身
分
取
扱
人

具家に至り之ヲ檢シ出產證書ニ其趣
ヲ記載ス可シ

第三十五條 出產ハ父ヨリ其陳述ヲ爲シ可
シ若シ父ノアラスル時ハ内科・外科ノ醫師
產婆又ハ其他出產ノ時立會ヲ爲シタル
者ヨリ之ヲ陳述ス可シ若シ母ノ其住所
外ニ於テ出產シタルハ其出產ヲ爲シタ
ル所ノ者ヨリ陳述ス可シ

出產證書ハ證人二人ノ面前ニ於テ直テニ
之ヲ記ス可シ

第三十六條 出產證書ニハ出產ノ日刻場
所其子ノ男女其子ニ命ス可キ名及ヒ其
父母ト証人トノ姓名職業住所ヲ記ス
可シ

第三十七條 棄兒ヲ見出シタル者ハ其兒并
ニ其兒ト同シク見出シタル衣服及ヒ其

他ノ品物等ヲ其地ノ身分取扱人ニ引
渡シ且其兒ヲ見出シタル時刻ト其場
所ノ景状トヲ陳述ス可シ
身分取扱人ハ此等ノ事ヲ詳カニ調
書ニ記シ且其調書ニ其兒ノ見積リ
年齡其兒ノ男女其兒ニ命ス可キ姓名
其兒ヲ引受ク可キ者等ヲ記シ之ヲ簿
冊ニ登記ス可シ

第三十八條 航海中ニ出産シタルハ其女ノ在ルニ於テハ
其父ト其乘組人中ヨリ撰ミタル証人二人トノ面前
ニ於テ二十四時間ニ出産證書ヲ記ス可シ右証書ハ
軍艦高船ヲ論ハス乗組人ノ姓名簿ノ末尾船長之ヲ記シ
第三十九條 右事ヲ爲ス後日本國內ノ湊ニ初テ碇ヲ卸シタル
時ハ右證書ノ寫シヲ其湊ノ身分取扱人ニ差出ス可シ身
分取扱人ハ又ハ母ノ本籍ノ身分取扱人ニ傳致ス可シ
若シ右船好國湊ニ着スルハ其寫シヲ其國ニ在ル

公使又ハ領事官へ出可シ右公使又ハ領事官ハ本國
外務省へ送り外務省ヨリ本籍ノ身分取扱人ニ達ス
ル爲ノ其地方官ニ達可シ

第四十條 子ノ已ノ子ト認ルノ証書ハ之ノ其
認ル日ニ身分証書ノ簿冊ニ記シ又其子ノ
出產證書アル時ハ其證書ノ端ニ其旨ヲ
記可シ

第四卷

婚姻證書

第四十一條

婚姻ヲ行フノ前ニ其届書ヲ一箇

ノ簿冊ニ登記スヘシ此簿冊ハ右ノ為ノ身分
取扱人ノ記スル所ノ者ニシテ各年ノ終リ毎
ニ之ヲ區裁判所ノ書記局ニ納ム可シ
右ノ届書ハ夫婦トナラントスル男女ノ姓
名職業住所其丁年或ハ幼年ナルヲ及ヒ知ル
ヲ得可キニ於テハ其父母ノ姓名職業住所ヲ

モ記ス可シ

第四十二條 右届書ノ寫一通ヲ作り十日間之ヲ身分取扱役所ノ門前ニ貼付シ公告ス可シ此寫書ヘハ之ヲ貼附セシ日付ヲ為ス可シ婚姻ハ右ノ十日ヲ歴サレハ之ヲ行フ可カラズ但シ右寫書ヲ貼付セシ日ハ算セス

第四十三條 若シ右ノ公告ノ為メ定メタル十日ノ時間終リ後一年内ニ婚姻ヲ行ハサル

時ハ前條ニ記載シタル法式ヲ以テ更ニ公告ヲ為サレバ婚姻ヲ行フ可カラズ

第四十四條 身分取扱人ハ夫婦トナラントスル男女ヨリ各出産證書ノ公寫ヲ出サシム可シ此法律布告ノ前ニ生レシ者ニ付テハ身分取扱人ハ第七十三條ニ記スル所ニ從ツテ作リタル證書ノ公寫ヲ出サシム可シ夫婦ノ内出産証書ノ公寫ヲ出スヲ得サル者

ハ已レノ生レシ地或ハ住所アル地ノ區裁判
所ノ所長ヨリ渡シタル身元證書ヲ以テ之ニ
代フルヲ得可シ

第四十五條 身元證書ニハ男又ハ女タル事及
ヒ親族又ハ其他ノ者タルヲ問ハス證人七人
ヲ用ヒ其證人ノ陳述マル所ト婚姻ヲ行フ可
キ者ノ姓名職業住所及ヒ知ルヲ得可キ時ハ
其父母ノ姓名職業住所且婚姻ヲ行フ可キ者

ノ出產ノ地及ヒ知ルヲ得可キニ於テハ其出
産ノ時ト出產ノ證書ヲ出スル能ハサルノ原
由トニ至ル迄ヲ記載ス可シ
其證人ハ區裁判所ノ裁判役ト共ニ其身元ノ
證書ニ其姓名ヲ記シ押印ス可シ
第四十六條 區裁判所ノ所長ハ願入タル夫又
ハ婦ノ實ニソノ出產證書或ハ第七十三條ノ
記スル所ニ從ヒ之ニ代用スルキ證書ヲ出ス

一能ハサルヤ否ヲ精密ニ取調シ後ナラテハ
身元證書ヲ渡ス可カラス

第四十七條 婚姻ハ夫婦ノ中一人ノ住所アル
地ニ於テ之ヲ行フ可シ但シ六ヶ月以上絶へ
ス寄留スル處ニ於テモ之ヲ行フヲ得可シ

第四十八條 公告ノ日限相過キシ後雙方談定
シタル日ニ身分取扱人ハ其住所又ハ其家ニ
至リ雙方ノ親族或ハ他人ニ拘ラス証人四人

ノ面前ニ於テ婚姻ノ取扱メヲ行ハシム
可シ右ノ為メ身分取扱人ハ先ニ夫婦ト
ナラントスル男女ヲシテ各夫及ヒ婦ト
スルヲ決意スルトノ陳述ヲ為サシム可
シ且法律ニ循ヒ婚姻ノ取扱メヲ行ヒタ
ルノ言渡ヲ為シテ直チニ其事ヲ婚姻證
書ニ記ス可シ

第四十九條 婚姻證書ニ左ノ諸件ヲ記ス

可

第一 夫婦ノ姓名職業年齢出產地及住所

第二 夫婦ノ了年ナル事又ハ幼年ナル事

但シ滿二十一歳以上ヲ了年ト云ヒ廿一

歳未滿ヲ幼年ト云フ

第三 父母ノ姓名職業住所

第四 父母祖父母及ヒ親族ノ許諾ノ

必要ナル時ハ其許諾

第五 各地ノ住所ニ於テ為シタル公

告

第六 婚姻ヲ為ス可キ者ノ互ニ夫婦

トナルヘキヲ欲シタルノ陳述

及ヒ官吏ヨリ婚姻ヲ行フ可キヲ

言渡シタル事

第七 證人ノ姓名年齢職業住所並ニ

其證人ハ婚姻ヲ為ス可キ者ノ親族

ニテ本宗又ハ外族タルト及ヒ何ノ
倫序ナルヤノ陳述

第五十條 何レノ婚姻ト雖モ身分取扱人
ノ面前ニ於テ定リタル法式ヲ以テ行ハ
サル者ハ不適當ノモノトス不適當ノ婚
姻ニ因リ生レタル子ハ贈遺ヲ受ルノ權
ナカル可シ

第五卷 離縁證書

第五十一條 離縁ヲ欲スル夫婦ハ身分
取扱役所一出テ身分取扱人ハ証人
四人ノ面前ニ於テ離縁證書ヲ記載
セサレハ離縁ヲ行フヲ得ス但シ離縁
ヲ同意スル夫婦或ハ同意セサルニ因
テ裁判所ヨリ離縁ノ言渡ヲ受ク
ル夫婦モ本条ノ式ノ如クス可シ

第五十二條 離縁—證書：左ノ件々ヲ
記載ス可シ

第一 夫婦ノ姓名職業年齢出産ノ
地及ヒ住所

第二 婚姻ヲ行ヒシ年月日及ヒ場所

第三 其子ノ姓名年齢男或ハ女タル

事

第四 離縁セシ後子ヲ預ケヘキ者

第五 離縁ナス可キ者ノ互ニ離縁ス
可キヲ欲スル事ノ陳述

第六 離縁セシ後夫婦各住所トスヘ
キ場所

第七 證人ノ姓名年齢職業及ヒ住所

第五十三條 離縁セシ夫婦ノ婚姻証書ノ
端ニ離縁セシヲ畧記ス可シ右ノ夕
ノ身分取扱人ハ離縁証書ノ公寫一通

元婚姻ヲ行ヒシ區裁判所ノ檢部ニ差遣
ス可シ檢部ハ身分證書ノ二冊ノ簿冊
ヲ端ニ離縁ヲ畧記スルヲ監視ス可シ

第六卷 死去証書

第五十四条 埋葬ハ身分取扱人ヨリ渡し

タル免狀ヲ得ルノ外之ヲ為スヲ得ス身
分取扱人ハ死去ヲ檢ス可キ為メ死者ノ
所ニ至ル可ク且死去ノ後傳染病ニテ死
セシ者等取締ノ規則ニ於テ定メタル場
合ノ外ハ二十四時ヲ経ルニ非サレハ其
免狀ヲ渡ス可カラス

第五十五条 死去証書ハ証人二人ノ陳述
スル所ニ從ヒ身分取扱人之ヲ記ス可シ
其二人ノ證人ハ親族又ハ近鄰ノ者ヲ得ルニ
於テハ之ヲ用ヒ若シ又住所外ニ於テ死去
シタル時ハ其一人ハ死去シタル家ノ者又一
人ハ死者ノ親族或ハ其他ノ人ヲ用フ
可シ

第五十六条 死去証書ニハ死者ノ姓名年

齡職業住所及ヒ死者ノ現ニ婚姻ヲ結ビ
タル者又ハ既ニ鰥寡トナリシ者タル時
ハ其夫又ハ婦ノ姓名ト陳述者ノ姓名年
齡職業住所及ヒ其陳述者ノ死者ノ親族
ナル時ハ其倫序トヲ記ス可ク且此証書
ニ死者ノ父母ノ姓名職業住所ト其死者
ノ出産ノ地トヲ知ルヲ得ルニ於テハ亦
之ヲ記ス可シ

第五十七條 兵病院及び尋常病院又ハ其他
公ケノ建造所等ニ於テ死去シタル者ア
ル時ハ其家屋ノ主者又ハ支配人所有者
ヨリ二十四時間ニ其事ヲ其身分取扱人
ニ報告シ其身分取扱人ハ死去ヲ檢ス可
キ為メ其家屋ニ至リ已レノ聽得タル其
陳述ノ詞ト已レノ檢査シタル所ノ条件
トニ後ニ前条ニ記載シタル所ノ如ク死

去ノ証書ヲ記ス可シ
其病院及び公ケノ建造所ニ於テハ其陳
述及び檢査ノ諸件ヲ登記ス可キ簿冊ヲ
設ケ置ク可シ
其身分取扱人ハ死者ノ最終ノ住所ノ身
分取扱人ニ其死去ノ証書ヲ送達シ其身
分取扱人ハ此証書ヲ身分証書ノ簿冊ニ
登記ス可シ

第五十八條 變死ノ徵アル時又ハ變死シ
タルコトヲ思察スヘキ摸樣アル時ハ取
締ノ官吏内科外科ノ醫師ノ助ケヲ受ケ
死体ノ形状及ヒ之レニ管シタル摸樣ト
死者ノ姓名年齢職業出産ノ地住所等ニ
付検査シタル諸事トヲ調書ニ記シタル
後ニ非レハ埋葬ヲ為ス可カラズ
第五十九條 其取締ノ官吏ハ其人ノ死シ

タル地ノ身分取扱人ハ直子ニ其調書ニ
記シタル諸件ヲ報告シ右身分取扱人ハ
此調書ニ從テ死去ノ証書ヲ記ス可シ
右身分取扱人死者ノ住所ヲ知得タル時
ハ其住所ノ身分取扱人ニ死去ノ證書ノ
公寫一通ヲ送達ス可シ但シ其身分取扱
人ハ其公寫ヲ身分證書ノ簿冊ニ登記ス
可シ

第三十條 罪人ヲ死刑ニ処セシ時ハ其時ヨリ二十四時間ニ刑法裁判所ノ書記役ヨリ死刑ヲ行ヒシ地ノ身分取扱人ハ第五十六條ニ記載セシ所ノ諸件ヲ検査シタル書ヲ送達シ其地ノ身分取扱人ハ其書ニ從テ死去ノ證書ヲ記ス可シ

第六十一條 獄舎懲役場等ノ内ニ於テ死シタル時ハ其係リ役人ヨリ直ニ其身分取

扱人ニ死去ノ事ヲ報告ス可シ其身分取扱人ハ第五十五條ニ記載セシ所ノ如ク其死去ノ所ニ至リテ死去證書ヲ記ス可シ

第六十二條 變死又ハ獄舎懲役場等ノ内ニ於テ死去シ及ヒ死刑ニ処セラレシ者アル時ハ此等ノ事ヲ簿冊ニ記サス唯第五十五條ニ記載シタル法式ヲ以テ死去

證書ヲ記ス可シ

第六十三條 航海中死去シタル時ハ船長ヨリ撰ミタル證人二人ノ面前ニテ二十四時間ニ死去證書ヲ記ス可シ右證書ハ軍船商船ヲ論セズ乗組人ノ姓名簿ノ冊尾ニ船長之ヲ記ス可シ

第六十四條 右ノ事ヲ為スノ後日本國內ノ湊ニ初碇ヲ卸シタル時ハ右證書ノ寫シヲ其湊ノ身分

取扱人へ差出ス可シ右身分取扱人ハ死去セシ者ノ住所ノ身分取扱人へ傳致ス可シ若シ右ノ船外國港へ着スルハ其寫ヲ其國ニ在ル公使又ハ領事官へ出ス可シ右公使又ハ領事官ハ本國外務省へ送り外務省ヨリ死去セシ者

ノ本籍ノ身分取扱人ニ違
スル為メ其地方官ニ違ハ可
シ

第七卷

身分證書ノ改正及ヒ遺漏ヲ記入スル

事

第六十五條 身分證書ヲ改ム可キノ願ヲ為

ス者アルキハ其所轄ノ裁判所ニ於テ裁

判後ハ檢部ノ意見陳述ヲ聴問シ其

改正ノ言渡ヲ為シ可シ但シ此裁判所ノ

言渡ニ服セサル者ハ更ニ其上ノ裁判

所ニ訴出ルヲ得可シ

司法省

具身分證書改正ノ1.ニ付キ掛リ合
數人ノ者ヲ呼出、可キノ理アル時ハ之
ヲ呼出、可シ

第百六十六條 何ルノ時ト雖、凡身分證書
付掛リ合人ノ中ニ之ヲ改ル1ヲ願ヒ出
ラズ又ハ之ヲ改ルルニ付キ、右掛リ合人ノ中
呼出シテ受ケサル者アル時ハ、其書ヲ改ル
ノ言渡ヲ強テ右ノ者ニ對シ行フ1ヲ得

ス

第百六十七條 身分證書ヲ改ム可キ裁判
言渡書ハ、身分取扱人ニ之ヲ受取タル後
直チニ身分證書ノ簿冊ニ登記シ且具
由ヲ元ノ身分證書ノ端ニ略記ス可シ

第百六十八條 身分證書ハ法律ニ定タル時
間ニ簿冊ニ書入レザリシ時ハ、第百六十
五條ニ記載シタル如ク區裁判所ヨ

リ言渡シタル裁判ニ由ラサレハ簿冊
ニ記入スルヲ得ス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

第 八 卷 皇族身分證書

第六十九條 皇族ノ身分證書ハ二通ノ簿冊ニ
記載ス可シ右ノ簿冊ノ初葉ト冊尾ト
ニ宮内卿ヨリ記号ヲ附シ各葉ニ其
實印ヲ押ス可シ

但シ 第六十條ヲ見合ス可シ

第七十條 右身分證書ハ宮内大丞一人
宮内卿ノ命ニ依リ定式ヲ以テ記載

司 法 省

ス可シ

第七十一條 右身分證書ハ簿冊ノ終リコラ
連接シ記載スヘシ右簿冊ハ書終リシ後
宮内卿コレニ第廿二條ハ但書ノ式ヲ以テ
奥書シ其一冊ハ太政官ノ内史ニ納メ
其一冊ハ左院ニ納ムヘシ

第六卷

皇親良公證書

第九卷

布告前ニ係ル身分證書ノ取立ル事

第七十二條 此法律ノ布告前ニ係ル日本
國民ノ身分證書ヲ取立シカタメ各組合
ニ於テ已ニ過キシ百年内ヲ每十年ニ區
分シ二冊宛ニ簿冊ヲ作ル可シ

第七十三條 此ノ法律布告シタル後六月
内ニ丁年ノ日本人各己レノ出產證書
ヲツツ出產ノ年ノ簿冊ニ記載セシム可シ

司法省

右證書ハ第三十六條ノ式ニ從ヒ成ヘタ
細密ニ記載ス可シ右出產證書ハ出產
地ノ身分承取人ニテ護人ノ面前ニ於テ
之ヲ記載ス可シ
身分承取人ハ各人陳述ノ真偽ヲ正サシ
テ爲メ從前ノ人別帳ヲ以テ之ヲ比較ス可シ
第廿四條 幼年ノ者ノ出產ノ陳述ハ其
父之ヲ爲シ其父アラサル時ハ其母之ヲ爲シ

又權ヲ削奪サレタル者ト孤子トハ後見
人ノ之ヲ爲シ隱居人ハ其相續人ノ之ヲ爲シ病
院或ハ牢獄ニ入りタル者ノ之ヲ爲シ右病院或ハ
牢獄ノ支配長之ヲナス可シ

第七十五條 何レノ人ニテモ已ハ出產證書ヲ
期限六ヶ月内ニ記載セサレハ婚姻ヲナシ
養子承組ヲ爲シ遺囑ノ贈遺ヲナシ毎
金ニテ贈物ヲ受ルヲ得ヌ又裁判所ニ於

ヲ證據ヲ立ルヲ得

第七十六條 此法律布告以前百年ヲ每
十年ニ區分シ各組合ニ於テ二冊宛ノ簿
冊ヲ取立テ百年内ニ取結ヒシ婚姻ハ悉
ク之ニ記ス可シ

第七十七條 此法律布告ノ後六月ノ間ニ
寡夫及ニ離縁セシ者ノ好都テ夫タル日
本人其婚姻證書ヲ記セル可シ此證

書ハ夫婦及ニ證人二人ノ面前ニテ記載
シ且左ノ件ニテ述フ可シ

第一 夫婦ノ姓名職業年齡出產
ノ地及ニ住所

第二 夫婦ノ年タルト又ハ幼年ナル事

第三 夫婦ノ父母存命ナルニ於テハ其
姓名職業及ニ住所

第四 婚姻ヲ奉行ヒシ年月日

第五 右婚姻ヨリ生レテ存命スル子年

齡及ヒ男女タル事

但シソム子ハタトハ既ニ他人ノ養子ト為リ

シ者ト雖モ本文ニ同シ

第七十八條 右百年期限ノ間ニ結ビタル何レノ

婚姻モ右六ヶ月ノ時間ニ書記セサレハ一

ト其証トキニヨウテ子孫相續等民法上

ニ付テ成功アル可ラス

第七十九條 若人ソノ生レシ場所ノ外或ハ婚姻セ

シ場所外ニ住居シ或ハ寄留スル節其住所

或ハ寄留所ノ身分取扱人紙葉一枚ニ身分證書

ヲ記シ生レシ地或ハ婚姻ナセシ所ノ身分取扱人

ハ之ヲ傳致スル身分取扱人ハ之ヲ直テニ已レノ

簿冊ニ其年ノ派芽ニヨウテ記ス可シ

第八十條 若シ其人或ハ後見人等右第七十三

第七十四及ヒ第七十七條ニ定メタル所ノ式ヲ

行ハサル時第^ニ七十七條ニ定メタル時間ヲ
過ル^ニ於テハ一日ニ付廿五錢ヲリ少カラヌ三圓
ヨリ多カラサレ^ル罰金ノ言渡^テ受^クヘシ

第^ニ八十一條 日本國外ニ在^ル日^本人ハ第^ニ七十
七條ニ定メタル六ヶ月ノ時間ヲ其歸國ノ日
ヨリ算^ス可^シ

第^ニ八十二條 此法律ニ定メタル六ヶ月ノ時間終
リシ後一ヶ月ノ間ニ簿冊ヲ各組合ニ備置^キ

人民ノ隨意ニ之^レヲ閱見スルヲ得セシム
可^シ

第^ニ八十三條 右一ヶ月ノ時間終リシ後簿冊ニ
記シタル證書ニ付異存^ノ故障^之レ無キ時ハ
身分取扱人ハ各證書^ノ端ニ異論ナシトノ文
ヲ記^ス可^シ但^{シテ}端書シタル證書ハ後日ノ證ト
ナス可^キ者トス

第^ニ八十四條 右一ヶ月ノ時間ニ其簿冊ニ記シ

タル證書ノ内一書ヲ改正スル事ヲ願フ者アル
節ハ身分取扱人ハ右證書ノ端ニ異論アリトノ
文ヲ記ス可シ
右改正ノ願ハ異論身ル證書及本人ノ住所ノ
區裁判所へ訴フ可シ裁判後ハ右證書ヲ記ス
可キノ文言ヲ定ム可シ
身分取扱人ハ檢部ヨリ受取タル裁判言渡書
ノ寫ヲ見認シ後之ヲ證書ノ端ニ記ス可シ

第八十五條 此法律布告ノ後十ヶ月ノ間ニ出産

婚姻ノ證書ヲ記ス可シ又之ヲ改正スヘキノ場合
ニ於テハ其改正書殘ラズ記ス可シ若シ怠惰ニ由
テ記載スルヲ延引セシ身分取扱人ハ右期限
ヲ過レハ一日ニ付~~五~~錢ヨリ~~六~~カラス六圓ヨリ
多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ但シ其證書ニ
關スル者ヨリ願フ得ヘキ損害賠金ハ此規則
ノ外タル可シ

第八十六條 右二冊ノ簿冊一組合ノ日記藏ニ
藏ノ一ハ區裁判所ノ日記藏ニ藏ム可シ

第八十七條 右簿冊ヲ藏メシ後日本國外在ル
日本人ノ證書及之ヲ書入ルモノキコアルハ其
簿冊ヲ預ル者ヨリ之ヲ為スヘシ

第八十八條 裁判所取立之レ無キ地方ニ於テ
ハ地方官身分證書ノ事ニ付裁判所ノ代リヲ
為ス可シ

Handwritten marks and characters on the left page, including a large character that appears to be '水' (water) and other illegible scribbles.

乙

子

亥

一